



5分間だけ
読んでみて!



バックナンバーが県教組のHPに有☑

考え直しませんか? 学力向上ブーム



あえて「ブーム」と言いますが、そのスタートは2006年の「PISA ショック」でした。

科学的リテラシー2位→6位、数学的リテラシー6位→10位、読解力14位→15位という結果に教育界はパニックになりました。そして、当時トップランカーのフィンランドに視察に行くも、授業中席を立てて水を飲みに行ったり、マイペースでみんなと違う勉強を黙々としている子がいたり主体的過ぎる教育からは何も取り入れられませんでした。

2007年からは全国学力・学習状況調査が始まり、結果が出るたびに「A問題よりB問題の正答率が悪い!」と活用力の向上が叫ばれ(そもそも難易度が違うテストの点数の比較は無意味)、「ゆとり教育が間違っていた」と教える量が増え、内容も難しくなりました。

犯人は本当に「ゆとり」?

この表はPISAの受験者(15歳)が何年間のゆとり教育を受けてきたかをまとめたものです。

実施年	2006	2009	2012	2015
ゆとり教育年数 義務教育9年間のうち	5年 	8年 	8年 	4年 
結果(科/数/読)	6位/10位/15位	5位/9位/8位	4位/4位/7位	2位/5位/8位



明らかに、ゆとりと学力に因果関係は見られません。むしろ、ゆとり教育を受けている方が学力は高いようにさえ見えます。

現在、PISAの学力調査では日本はV字回復。実は目標だったフィンランドをとっくに超えており、学力向上対策は終わっていいはずですが、いつの間にか都道府県競争にすり替えられ、学力向上レースを続けさせられています。ちなみにこのレースは永遠に終わりません。

本当に問題なのは「学力格差」!



20年以上前にゆとり教育が叫ばれた背景には、詰め込み教育で、「落ちこぼれ」「無気力」などの問題が生じたことがありました。これを戻せば、また同じような問題が起こるのは目に見えています。現に今、「学力格差=学力の二極化」が顕著になりつつあります。



マモルの一言日本の教育予算における公的支出はOECD参加国中で最下位(対GDP比)。それでも国際学力テストで上位にいられるのは、残業手当を支払わなくてよい給与制度の上で教員を極限まで働かせているからです。詰め込み教育では子どもの負担も先生の負担もさらに高くなります。

「子どものため」を装って...



日本の学力はすでに世界でも高水準です（あくまでペーパーテストの結果ですが）。都道府県間の差も無視できるほど小さく、幅は年々狭まっています。

しかし「子どものため」と言っ、様々な学力調査の実施、点数の報告や分析、学力向上策が下りてきます。これらにとりくみはメリットをはるかに上回る弊害があります。

- 学力調査はそもそもの学習の時間を削減しています。テストが4教科4時間、テスト直しにさらに2~4時間かかれば、1日以上学習がすすまないことになります。
- 結果分析をしても、それを授業に生かすだけの余裕はありませんし、わざわざ分析しなくても学力に問題がある子はすぐに分かります。
- 過去問やプリントの多発は子どもを勉強嫌いにします。「関心・意欲・態度」も大切な学力の1つです。意欲が下がると学力格差がさらに開いてしまいます。
- 指導案を書いて研究授業を行うのは、この多忙な現場では余りにも無駄が大きいです。

大切なのは!



毎日の授業をよくすることです!

分かりやすい授業、楽しい授業をめざしましょう!

その中で特に勉強が苦手な子に手を尽くすのが本来あるべき学力向上策です!



学力調査や分析に意見を言いましょう。

「テストのせいで、教科書の学習がすすみません!」

「分析しなくても困っている子は分かります!」

「分析をしても、授業に生かすだけの余裕はありません!」

「指導案を書くよりも勉強が遅れている子への対応に力を入れさせてください!」 声に出しましょう!

学力向上の先にはどんな幸せがあるのでしょうか?



「いい大学に入って、いい企業に就職できる」なんて言わないでくださいね(笑)

この問いに答えられないようでは、学力向上施策はただの「順位対策」と言われても仕方ありません。

何が大切かをみんなで考え直してみませんか?

多忙反対! 家庭第一のイクメン教師
つるぎ

剣マモルが行く!

無敵の新人たち! の巻



給特法では、教員に時間外勤務はさせないことになっています(限定4項目以外)。逆に残業をしていいのは管理職です。適正な運営のためにまずは業務削減が必要です。



マモルの一言 学力・学習状況調査にかかる費用は年間 60 億円! これを各県に振り分ければ富山県には約 6000 万円。本来、この費用を勉強が苦手な子のために使うのが公教育の使命ではないでしょうか。